

水素供給量拡大に政府が方針を策定

この度政府が未来の水素供給量に関する導入目標を示すこととなった。5月末に、再生可能エネルギーの普及のために水素基本戦略を改定する方針で、2040年の水素供給量目標を1,200万トン程度に増やす方針である。1,200万トンという数値は現在の200万トンの6倍にあたる数値で、この実現のために官民合わせて今後15年間で15兆円の投資を進める計画である。

水素は再生可能エネルギーとして期待が寄せられながら日本政府は必ずしも積極的に取り組もうとしてこなかった。これを契機に水素導入の気運が高まることが期待される。